

福岡県スクールソーシャルワーカー協会
第3回大会

非行問題と生徒指導

2014.06.21(SAT)



「改めて非行問題を見つめ直す」

子どもたちの声が聞こえていますか？

2014年6月21日に福岡県スクールソーシャルワーカー協会第3回大会がクローバープラザ(福岡県春日市)で開催されました。「非行問題と生徒指導—子どもたちの声が聞こえていますか」を大会テーマに据え、2部構成での大会プログラムを企画進行しました。

第1部では、会員を対象とした「養成研修」「専門研修」、また学校関係者を対象とした「特別企画」が実施されました。特に「特別企画」は、福岡市教育委員会指導部教育相談課主任指導主事の相良哲哉氏、福岡市立城原小学校教頭の遠入哲司氏、福岡市教育委員会スクールソーシャルワーカーの蒲池恵氏の御三方から、「スクールソーシャルワーカーの効果的活用のすゝめ」についてご報告いただき、フロアーを含めた意見交換が行われるなど、大盛況でした。

第2部では、本大会のメインプログラムとして「基調講演」と「大会シンポジウム」が実施されました。「基調講演」では、大阪刑務所分類審議室長の青木宏氏から「非行少年とどう向き合うか」をテーマにご講話いただきました。非行の状態をわかりやすく読み解いていただき、多角的にみつめる姿勢や健康面に着目する視点を学ぶことができました。また、「大会シンポジウム」では、元福岡市立城香中学校生活指導主事の有光鉄也氏、北九州市立三郎丸小学校教諭(元福岡県警察官)の金子良太氏、ちくし法律事務所(福岡県弁護士会)の迫田登紀子氏の御三方から「非行問題と生徒指導—今、私たち専門職に課せられた使命とは—」という題目でご発題いただきました。子どもたちの状況に応じた専門的な「向き合い方」と関わっている機関・人による「有機的な連携」が重要であることを再認識できたシンポジウムでした。

全体として140名を超える方々にご出席いただき、盛会のうちに第3回大会を終えることができたと感じております。これも本大会開催にあたってご協力いただきました協会関係者、学校関係者、行政機関の皆さまのおかげであります。本当にありがとうございました。今大会を通して、改めてスクールソーシャルワーカーに求められている専門性を振り返ることができたと思います。目の前の業務に追われてしまい、本来着目すべき「子どもたちのニーズ」「子どもたちの声」を見逃してはいないか…。我々は、このような自分自身への問いかけを意識し、さらに専門性向上をめざして活動していかなければなりません。本協会では、会員の皆さまの活動をサポートすべく、今後も研修会などの機会を提供して参ります。引き続き、協会活動へのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

福岡県スクールソーシャルワーカー協会
事務局長 下田 学



「非行問題と生徒指導 —子どもたちの声が聞こえていますか—

鑑別所・少年院という言葉は聞いたことがあるものの、詳細については十分理解できていませんでしたが、今回の講演で具体的な法律上の流れや日常生活の様子について学ぶことができ、大変勉強になりました。さらに、入所した一人一人に向き合い、その個々のタイプに合わせて見立てをし、生活の質も保障しながら、自立や社会復帰に繋げる為の支援が行われているということが分かりました。実際にそれを行っていくのは難しいことだと思いますが、実践に伴った面接技法は、非行少年に対してだけでなく、学校ソーシャルワークの職務でも幅広く活用できる、非常に為になる講演でした。

青木先生が少年に接する姿勢は、正にソーシャルワーカーの基本であり、今後の私たちが実践に活かすべく大切な視点を学ばせて頂きました。これから、子ども達が将来に希望を持ち、その実現に向かって進んでいけるよう、学校や家庭に働きかけていきたいと思えます。そして、スクールソーシャルワーカーである自分が自身を保っていく為、横(仲間)との繋がり・支え合いも大切にしていきたいと思いました。

正会員 平川明美
正会員 岡嶋かよ

福岡県SSW協会第3回大会に参加し、「非行とどう向き合うか」という視点から、専門職としての、物事の捉え方を勉強させていただきました。ソーシャルワーカーは、クライアントを取り囲む人間関係や、環境をマクロな視点から捉え、調整していくことが大きな役割の一つであると思っています。しかし、今回の研修で学んだ事は、あらゆる問題の原因は取り巻く環境だけの問題ではないという事でした。非行に走る子どもや、社会から孤立してしまう人のその要因は、当人の抱える問題、「個性」とも言えるものが少なからず影響しており、それが全ての要因ではないけれど、それは不可欠な要因である、といことを、改めて気付くことができました。取り巻く環境の調整は大変重要で、それをきっかけに状況が好転する事も必ずあると思います。しかし同時に、環境ばかりに意識を向けることの危険性を、改めて学ぶことができました。福岡県SSW協会の研修は、福祉に携わる者として、一度立ち止まり、あらゆる「視点」を発見できる貴重で大切なものです。今後も、できる限り参加していきたいと思っています。

賛助会員 斉藤里絵

Program



第1部では、養成研修、専門研修、特別企画が行われました。養成研修では、連続講座第1回目として「学校ソーシャルワーク入門」と題し、学生会員、賛助会員を対象とした研修が行われました。専門研修では、正会員、準会員による実践発表が行われました。特別企画では、スクールソーシャルワーカー配置推進に成果を上げてきた教育委員会や学校関係者よりご報告をしていただきました。

養成研修

養成研修では協会の会長である門田先生より『学校ソーシャルワーク入門』という内容で、アメリカでのスクールソーシャルワークの歴史から現状、そしてわが国の学校ソーシャルワーク導入に至った経緯、現状についてのお話を聞かせていただきました。その中で、学校ソーシャルワークの「学校」という言葉のなかには、日本の「学校文化」が踏まえられていて、その中でソーシャルワーク実践を行っていくというお話がありました。そのことがとても印象に残っています。私は今年度4月からスクールソーシャルワーカーとして働かせていただいているのですが、その学校文化には生徒指導という独自の文化があり、先生方は教科や学習を教えていくのと平行し、生徒指導をととても熱心にされていて、日々感激させられることも多いです。そのため、今回の研修を通して、ただ学校でソーシャルワークを展開するのではなく、学校文化を理解した上でソーシャルワークを展開していくことがいかに大切かという点を改めて痛感させられました。今後はさらに日本の学校、先生について理解を深め、学校に溶け込む学校ソーシャルワークを行っていくよう日々精進していきたいと思えます。

正会員 田中万里恵

専門研修

今回、私は専門研修の「実践発表 非行問題と学校ソーシャルワーク」に参加させていただきました。研修では初めて現任者による実践発表ということで、いつもとはまた違う雰囲気の中での研修でした。実践発表では、3人の現任者の方々が発表を下され、「非行問題と学校ソーシャルワーク」をテーマにそれぞれ違った視点での実践発表で大変勉強になりました。非行問題への取り組みでの情報収集とアセスメントに視点をあてた実践発表では、一から丁寧に情報収集、アセスメントしていくことで非行問題の裏にあった部分が見えてきたことにより支援の展開が大きく変わっていったと思いました。また、町単位で非行問題に取り組まれた実践発表では、学校そして町を巻き込んで取り組んでいくという大変勉強になる発表でした。最後に、非行問題に対する派遣型SSWの方の実践発表では、支援展開を細かく発表を下され、どの支援段階でも子どもを中心とした支援展開だったことが大変印象に残りました。今回の研修では、現任者による実践発表ということにより自分自身だったらどう支援していくかなど具体的に考えることができました。この度は貴重な研修をありがとうございました。

正会員 篠原良子

特別企画

特別企画では、『スクールソーシャルワーカー効果的活用のすゝめ』をテーマに教育委員会の立場からと学校の管理職の先生の立場からご報告をいただきました。相良主任指導主事からは、学校とスクールソーシャルワーカーとの接点をつなぐ重要な役割について、ハード面のサポートからソフト面のサポートについてお話をいただきました。遠入教頭先生からは、スクールソーシャルワーカーを受け入れる前の学校の状況からスクールソーシャルワーカーを受け入れ後の体制、配置3年間の計画について具体的にお話をいただきました。

今回のご報告を受けて、スクールソーシャルワーカーが入ってからがスタートなのではなく、その学校の歴史や状況の中にスクールソーシャルワーカーとして存在していることを改めて実感しました。また、同時にそこでの出会いの一つ一つが次の瞬間のソーシャルワーク実践に繋がっていることを実感しました。

正会員 蒲池恵

第8回研修会



専門研修

『スクールソーシャルワーカーに 求められる専門性』

門田光司

福岡県スクールソーシャルワーカー協会 会長
久留米大学文学部社会福祉学科 教授

門田先生による、協会第一回の専門研修はSSW先進国アメリカにおける登用というテーマに基づく問題提起でした。

修士号の取得と、SSWとしての知識を問う客観テスト合格、さらに、日本には教師適性の客観テストも存在しないのに、SSWが教壇に立つことを前提としてその資格テストが必要条件であるとのことでした。中でも、大学院在籍中に現場実習と講義を繰り返し、実践に裏打ちされた理論を身につけるという内容が印象的でした。ここでも、日本の教育実習が2週間であることを考えると、質量ともに大きな違いを感じます。

突然！門田先生翻訳による「抜打ちSSWテスト」33問が始まります。その結果「専門家気取りの経験に偏った支援になっている」という警鐘を鳴らされてしまいました。自信があった問題に間違えてしまったからです。今、生半可な知識と試行錯誤によって支援している現実がありました。無論、万全な知識を持つことは不可能です。しかし、体系的な知識からは、問題へのヒントが生まれます。その体系を持ってこそ専門家だと言うのに、考え付きませんでした。今回の門田先生の講義テーマは「専門研修はなぜ必要か」これだったようです。

正会員 堀川重敏

基礎研修

『スクールソーシャルワーカーが 働くフィールドを知る～学校編』 荒巻智之

須恵町教育委員会 スクールソーシャルワーカー

基礎研修を受けて、ソーシャルワークの視点を学校でどのように活用していくかを学ぶことが出来ました。特に、ソーシャルワークで大切なケースマネジメントを学校で展開していくための方法を知ることができ、大変勉強になりました。

グループワークでは、小学校の行事にどのような目的や視点を持って参加しているかについて話し合いました。他の方の様々な意見を聞くことができ、参考になりました。グループワークの最後に荒巻さんが「子ども達が楽しんでいるかということも大事」と話され、グループで出た意見の大半が否定的な目的に偏っていることに気がきました。研修を通して、私自身が日々の活動に余裕を持つ事が出来ていなかったため、否定的な目的に偏っていたように思いました。肯定的な視点を持つことによって、子ども達とラポールを気付くきっかけとなり、「気付き」を促すことに繋がっていくのではないかと感じました。

4月にSSWとして学校に入り、不安がとても大きかったのですが、今回の研修を受けて、まずは、子ども達の楽しんでいる様子を見つけることから始めようと思います。そして、子ども達と一緒に学校生活を楽しんでいきたいです。

正会員 木庭萌美

第9回研修会



養成研修

『スクールソーシャルワーカーの仕事』

奥村賢一

福岡県スクールソーシャルワーカー協会 副会長
福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科 准教授

今年の4月からスクールソーシャルワーカーとして働き始め、5ヶ月が過ぎました。夏休み期間に行われた今回の研修では、養成研修と基礎研修に参加させていただきました。

養成研修においては、「SSWの仕事」というタイトルで、SSWの仕事について5つのコンテンツに分けて説明がありました。ひとつひとつの内容において、私たちが実際に仕事をしていく中で大切なことを振り返ることが出来ました。また、研修の後半では、SSWとして働く中で、学校の先生方から受けられると思われる質問を具体的に想定し、それに対する回答を考えるという、実践に直結するような内容も盛り込まれていました。ここでは、自分とは違う回答を出された方の考えを知ることが、自分自身の視野を広げることが出来たと思います。

また、基礎研修はSSWとしての専門性について考える機会となりました。SSWとして必要とされる人材について考えるにあたり、グループに分かれて社会福祉士の国家試験を解いていきました。問題はケースマネジメントの流れに沿って出題され、それぞれの場面で必要とされる専門性について、考えを深めることが出来ました。以前は資格取得のために取り組んだ問題も、専門職という現在の立場で問題に取り組むことで、問題の読み解き方が変わっていたことに気づきました。また、グループとしての回答を考えるため、グループ内でも積極的に意見交換をしました。他の参加者の方の価値観を知ることが、自身にとって、とても良い刺激になりました。今回の研修会では、4月からSSWとして働く中で悩んでいたことについて解決のヒントを得ることが出来ました。研修会は、普段の自分を振り返る素晴らしい機会になると思います。今後ぜひ研修会に参加していきたいと思いました。

正会員 上野健太

専門研修

『専門職としての自己点検 学校ソーシャルワーク実践の観点から』

下田学

福岡県スクールソーシャルワーカー協会 事務局長
九州工業大学 キャンパスソーシャルワーカー

私にとって本協会研修に参加することは、仲間との所属感を共有できることの喜びと、自己を振り返り反省し、新たな気づきを今後の支援につないでいこうと心を立て直す貴重な時間となっていて、毎回楽しみにしています。

今回の専門研修「専門職としての自己点検」では、キャンパスソーシャルワーカーとして活躍されている下田CSWの活動内容を伺いながら、社会に巣立つ前の現実的な支援、将来的な自立イメージを持つ必要性や価値など、義務教育学校でのSSW活動の中で設定する短期・長期目標との視野の違いを実感し、児童福祉領域外での支援の困難さを学びました。また、最近、私自身も考えさせられているインクルーシブ教育と特別支援教育との融和についても触れられ、いかに子どもの利益をきちんと見極めた支援ができるか、という課題を再確認できたことは有意義でもありました。主テーマの「SSW自己点検」の内容講話では、SSW導入時のワーカーとしての苦労を思い出しつつ、一方で、経歴を重ねることで偏った視野や視点、経験論任せの支援になっていないか、との振り返りが出来、改めてアセスメントの重要性にも気づかされました。特に、私が今回の研修内で最も深く心に残っている内容は、所属機関や学校のSSWの社会的承認は徐々に高まっているが、果たしてそれは、専門職SSWとして承認されているのか。個人の手柄や資質が受け入れられただけではないのか。支援内容に対する承認価値を得られているのか。を問われたことでした。すぐには答えが出ない問題提起でしたが、今後の活動の中で、専門職SSWとして意識しなければならぬ大切な事を投げかけられたと感じています。最後になりましたが、1学期を終えて自己研鑽すべきこの時期の研修会に参加出来たことは、2学期に向けてのエネルギーチャージとなりました。このような機会を企画していただきました講師及び運営委員の方々に深く感謝いたします。

正会員 濱とおこ

基礎研修

『スクールソーシャルワーカーの 知っておくべき基礎知識』

池田敏

福岡市教育委員会 スクールソーシャルワーカー

専門研修に参加させていただいて、自分ではテーマである「専門職としての自己点検」を日頃しているつもりでしたが、具体的にできていなかったと反省しました。まず自分自身が周りからどんな形で承認を受けているのか、その承認像は自分が求めるイメージとギャップがないかということが問われました。自分が求めるイメージに近い部分があれば、少し違う部分もあると感じました。その差を埋めるためには、これからの自分の「動き」を見て認めてもらえないかと思っています。また経験値が上がると視野が狭くなる危険性があると学びについて、一つも同じ事例はないわけで、経験すればするほど、常にこれでよいか、確認作業が必要であると感じました。自己点検の項目や点検方法を具体的に教えていただいたことを、今後実践して行きたいと考えています。

基礎研修では、楽しく学ぶことができ、横のつながりが広がった気がします。職場に一人の専門職であることで、責任感を感じ身が引き締まりました。自分の力を発揮しやすい自由さがある反面、相談したくてもすぐできない不安を抱えています。仲間と学び合う場があるということを感じました。またあらためて「アセスメント」「プランニング」「モニタリング」についての振り返りや確認ができてとても勉強になりました。そしてこれもまた、「専門職としての自己覚知」について考えさせられました。

今回の研修でもまたたくさんの振り返りができ、参加した意義をととも感じました。振り返りによって、多少の落ち込みも伴いますが、向上していきたいという意欲も生まれます。協会スタッフの皆さんいつもありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。

正会員 高村健登美

特集 1

夏休みは〇〇のチャンス！？

夏休みときくだけで、ワクワクしますね。

夏休みは子どもたちにとって、
たくさんのキラキラやドキドキのチャンスが
ひろがっていますが、

大人にとってもたくさんのチャンスをつかむことが
できるときでもあります。

さあ、あなたはどんな夏休みにしたいですか？



人間関係づくりのチャンス

夏休み先生方とランチに行ったり、いつもより長い休み時間に先生方とリラックスした雰囲気、ゆっくり話ができます。

充電のチャンス

SSWとして、子どもや先生方関係機関の対応でエネルギーを使うので、エネルギーを充電する時間が必要かなと思います。まず、自分が元気でないと！

バカンスのチャンス

夏休みだからこそ研修会など仕事もありますが・・・お盆など先生方もお休みをとられます。そんな時はSSWも休みをとり旅行に行ったり花火に海に・・・バカンスのチャンスです。

地元に戻るチャンス

地元の友達と会って、自分の子どものころの話を思い出すことができるからです。

遊びのチャンス

気持ちをリフレッシュ。仕事関係の方と交流で、いつもと違う一面を見つけることで、2学期に子どもと話すネタ作りなどいろんなことにつながります。

成長のチャンス

社会資源を発展させたり、研修を受けたり、自分の考えを整理する時間的余裕が生まれるからです。

視野を広げるチャンス

長期休みが取れる場合は休みを利用していろんなことに挑戦すると自分の視野も広げられるのではないかと思います。

第9回研修会にてご協力頂いたアンケートをもとに作成しています。ここに掲載している他にもたくさんの回答をいただきました。全てをご紹介できず、すみません。アンケートのご協力ありがとうございました。

特集2

小学校の頃の将来の夢は？

将来の夢＝憧れの大人

あなたの今の将来の夢は何ですか？

どんな大人になりたいですか？

いくつになっても憧れの大人を追い続けていきたいですね。

★ 野球選手

★ 学校の先生

- * 運動会やレク等、毎日が違っていて楽しそうだったから
- * 小学校の先生が大好きであこがれていたから
- * 人間味あふれた先生と出会えたから
- * 身近にいた一緒にいて楽しい大人だったから

★ 保育士

- * 自分の通っていた保育園の先生にあこがれていたから
- * 苦手なことと一緒に向き合ってくれる先生と出会って、やりがいのある仕事だと思ったから
- * 年下の子どもの面倒を見るのが好きだったから

★ 芸能人のマネージャー

★ 看護師

★ 料理人

★ 美容師

★ 作家

★ お菓子屋さん

★ 福祉の仕事

YUIKO TANAKA

田中 惟子

北九州市教育委員会 スクールソーシャルワーカー

スクールソーシャルワーカーになり3度目の夏休みが終わろうとしています。今年の夏休みは、新しいことに挑戦しようとする子どもたちの姿、達成感に満ちた笑顔を見る機会が多かったです。SSWとして、子どもの成長に関わることでできた喜びを感じました。また、私自身、業務の中で、迷い、悩み、自分に自信が持てないことも多くありますが、子どもの頑張りには負けずに私も頑張ろうと思う機会をたくさん与えてもらった夏休みでした。

学生の頃は、宿題が終わらない憂鬱な気持ちで迎えた夏の終わりですが、SSWになってからは、子どもの成長を感じた喜びと、成長した子どもたちに会える2学期が楽しみな爽やかな気持ちで夏の終わりを迎えています。

研修事業より

今年度の研修会は、4月、6月、8月、10月、12月、2月の第2土曜日の開催を予定しています。（※6月の研修会は、6月21日の大会内に含まれます。）

開催時には、その都度メールリスト等でご案内致しますので、ご確認よろしく申し上げます。

次回の研修会は、

10月11日(土)です。

ご参加お待ちしております

facebook

事務局より

立ち上げています！！

『福岡県スクール
ソーシャルワーカー協会』

で、ご検索下さい。
最新情報を更新しています！！

FASSWからのお知らせ

広報事業より

* 広報誌は、年に3回配信しています。
* 次回の配信は、**12月31日**です。
お楽しみに～

* 広報誌では、研修会に参加された会員の皆さまにご感想を頂き、掲載しています。研修会の折には、皆さまに執筆のお願いをするかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。



発行責任者： 奥村 賢一

編集担当： 広報事業 蒲池 恵 寺田 有起 森山 麻衣子

お問い合わせ

福岡県スクールソーシャルワーカー協会 事務局

〒839-8502

福岡県久留米市御井町1635番地 久留米大学 文学部社会福祉学科 (担当/山崎)

Tel : 0942-43-4411 Fax : 0942-43-5160

E-mail : fassw-2012@hotmail.co.jp

